

研究・調査報告書

報告書番号	担当
196	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳)	
Alcohol consumption and the use of antidepressants. アルコール消費と抗うつ剤使用	
執筆者	
Graham K, Massak A.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
CMAJ. 2007 Feb 27;176(5):633-7.	
キーワード	
アルコール、飲酒、抗うつ剤、うつ、横断研究	
要旨	
<p>背景・目的： うつ状態である者およびそうでない者 (男女) において抗うつ剤使用とアルコール消費の度合いとの関連を検討する。</p> <p>方法： コンピューターを利用した無作為化番号電話面接にて 18 歳から 76 歳のカナダ在住者 14063 人の抽出集団に調査を行った。飲酒量、飲酒頻度、世界保健機構 (WHO) による統合国際診断面接 (<i>Composite International Diagnostic Interview</i>) のうつ病に関する測定、そして回答者の抗うつ剤使用経験の有無などを調査した。</p> <p>結果： 全体的にうつ状態の回答者のほうがそうでない回答者に比べ飲酒量が多かった。しかしこの傾向は抗うつ剤使用中のうつ男性ではあてはまらなかった。このグループ (抗うつ剤使用中のうつ男性) が前年平均 414 ドリンク (1 ドリンクはアルコール換算 12~13 グラム。訳者) のアルコールを消費したのに対し、抗うつ剤を使用していないうつ男性は 579 ドリンク、うつでない男性は 436 ドリンクであった。女性に関しては抗うつ剤使用の有無に関わらずうつとアルコール消費の間に正の相関が見られた。すなわち抗うつ剤使用中のうつ女性が前年平均 264 ドリンク、抗うつ剤を使用していないうつ女性が 235 ドリンク、うつでない女性が 179 ドリンクそれぞれ飲酒していた。</p> <p>結論・解釈： 本横断研究の結果は、うつ男性のアルコール消費に関して (飲酒を抑制するという意味で) 抗うつ剤使用が有益であるという可能性と一致していた。(1) なぜ男性のみにこの現象がみられ女性に見られなかったのか、(2) この現象は薬剤そのものの作用に由来するのか或いはその他の要因によるものか、については更なる検証が必要である。</p>	